

15. 株式会社SmartHR スキル管理システム

(株)SmartHR スキル管理システム

企業名	株式会社SmartHR
機器・サービス名	スキル管理システム
問合せ先	accessibility/atmark/smarthr.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	従業員のスキルやそれを裏づける資格の情報を管理します。スキルや資格ごとに従業員の登録状況を俯瞰して閲覧できるスキルマップから組織全体の傾向を把握できます。また、社内研修をオンライン化でき、受講履歴を管理できます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 従業員の保有資格、研修の履修、経歴などの客観的な情報から、従業員の「スキル」に関するデータを収集・管理します。 ● 研修コンテンツの配信と従業員の受講管理をします。 ● 受講者ごとのステータスを一覧で可視化します。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● すべての操作をキーボードのみで行えるように設計しています。UIの配置や説明文など、細部にわたり改善を行いました。 ● スクリーンリーダーを利用するユーザーもスライドを使用したオンライン研修を受講できるように対応しています。 ● VoiceOverとNVDAを用いて検証を行いました。 ● 高齢者、障害者も使いやすく、わかりやすいよう配慮し、一貫した操作性、わかりやすい説明、視認性の高いUIを実現するよう開発しました。 ● やさしい日本語への対応を予定するなど、幅広い利用者を想定して開発しています。

スキル管理

スキルマップ

申請

バックグラウンド処理

設定

同期日: 2025/05/01 00:00

スキル情報の切り替え

スキル

CSV操作

	経営管理部			人事総務部			営業本部
	102 管理 花子	110 管理 太郎	113 支社長 二郎	102 管理 花子	111 人事 杏果	114 労務 里佳	112 申請 承子
セキュリティ体制構築・運営	2	-	-	2	-	-	3
セキュリティマネジメント	-	3	-	-	-	-	2
インシデント対応と事業継続	3	-	5	3	2	-	4
プライバシー保護	5	-	-	5	-	5	-
セキュア設計・開発・構築	-	-	-	-	-	-	-
セキュリティ運用・保守・監視	-	-	-	-	-	-	-
▼ ビジネス変革	-	-	-	-	-	-	-
▼ 戦略・マネジメント・システム	-	-	-	-	-	-	-
ビジネス戦略策定・実行	-	-	5	-	-	-	5
プロダクトマネジメント	-	-	-	-	-	-	4
変革マネジメント	-	-	5	-	-	-	3
システムズエンジニアリング	-	-	-	-	-	-	-
エンタープライズアーキテクチャ	-	-	-	-	-	-	-
プロジェクトマネジメント	3	-	5	3	-	-	-
▼ ビジネスモデル・プロセス	-	-	-	-	-	-	-
ビジネス調査	-	-	-	-	-	-	4

11件中 1 - 11 件

▲

▼

(株)SmartHR スキル管理システム

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 設計段階で、社内のアクセシビリティの専門家や障害当事者と話し合い、具体的な実装方法を検討しています。
- 開発メンバー全員が社内のアクセシビリティチェックリストを確認しながら開発を進めています。
- 障害者だけでなく、高齢者に対するアクセシビリティに関しても積極的に考慮しながら開発を進めています。
- 早い段階で障害当事者が試用し、見つかった問題に迅速に対応することで、障害者にとっても直感的で使いやすいものとなるように改善を実施しています。サービスのリリース前には、当事者を含むアクセシビリティテスターによりWCAG A相当のテストを実施、またアクセシビリティの専門家が承認を行っています。
- すべてのユーザーが安心して利用できる品質を確保してから製品をリリースしています。

企業としての 組織的な取組

- 2022年にアクセシビリティを専門とする部署(アクセシビリティ本部)を設立。ウェブアクセシビリティの専門家と、アクセシビリティテストを専門とする障害当事者が在籍しています。
- 製品開発については、アクセシビリティ方針とアクセシビリティガイドラインを策定しています。また、ガイドラインに沿った開発を持続するため、専門家による開発者の育成を行っています。全社向けに、アクセシビリティ研修を定期的実施しています。
- 幅広い利用者を想定し、やさしい日本語への対応を進めています。
- 精神障害や知的障害などのユーザーの操作を観察して開発にフィードバックできるよう取り組んでおります。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 社内のシステムに誰もがアクセスできることは重要である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 開発段階からアクセシビリティへの対応を進めた結果、使いやすく、使えるシステムとなっている。
- ・ 障害者だけでなく、高齢者に対するアクセシビリティなどに積極的に取り組んでおり、また、やさしい日本語への対応など、幅広い利用者を想定している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 社内に障害を持つアクセシビリティの専門家を擁し、デザインやテストなどに関与して、当事者のニーズを製品にフィードバックしている。
- ・ デザインの段階から開発メンバー全員で社内のアクセシビリティのチェックリストをもとに確認しながら開発を進めたり、精神障害や知的障害などのユーザーの操作を観察してフィードバックしている。
- ・ サービスのリリース前に当事者を含めユーザーテストを行い専門家が承認をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティ研修等を定期的実施し、社内におけるアクセシビリティ対応を徹底している。
- ・ アクセシビリティを専門とする部署を設立するなど組織的にこの問題に取り組んでいる。
- ・ 当事者社員と共に開発を行ったり、開発者を育成している。障害当事者の方がテスターとなる取組を実施。
- ・ 社内の障害当事者によるアクセシビリティテストやWCAGのテストの実施など検証と改良に努力している。
- ・ アクセシビリティ方針とガイドラインを策定し、社内だけでなく広く理解を促す取組を行っている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 現在は自社内やアクティブシニアを主な対象としているが、より広い範囲のユーザーや当事者ニーズを取り込むことを期待する。
- 去年の応募は人事管理、本年はスキル管理についてであるが、他の人事管理システム(たとえば、健康経営関係)についても対応を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- コントラスト、ターゲットサイズ、タイムアウト、複数手段などのアクセシビリティ要件が満たされていない点への改善を期待する。
- 字幕付きの説明用動画を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- 社内に限らず、より広く当事者ニーズを取り込んだシステム開発を期待する。
- 「やさしい日本語」を追加するなど発展可能性は期待できるものの、字幕や音声ガイドといった人手やコスト等の問題への対応を期待する。
- 障害特性に配慮したテストの実施を期待する。